

5月もっとメッセージ

ついに令和元年がスタートしました！

5月になりました。本日より令和元年、新しい時代がスタートしました。

年度の途中ではありますが、また新たな気持ちで臨める、そのような心境の方も多いのではないのでしょうか。皆さまが過ごしてきた「平成」の時代以上に、「令和」が素晴らしい時代となることを祈念しております。



第1期実施計画及び第2期総合戦略策定に係る説明会で各部課等の長に向けて考えを述べる市長

さて、本市も「平成」の30年間を振り返ってみると大きな変化を遂げてまいりました。

平成3年4月1日、全国656番目、県内で29番目に市制を施行し、「袖ヶ浦市」が誕生しました。この時、「君津郡袖ヶ浦町」から「袖ヶ浦市」になり、「大きい『ヶ』」を採用するようになりました。

平成9年には「東京湾アクアライン」が開通し、国道16号線、国道409号線に接続する「袖ヶ浦インターチェンジ」が完成しました。これを機に設置した袖ヶ浦バスターミナルには、羽田空港をはじめ、新宿駅、品川駅、横浜駅、川崎駅などに発着する高速バスが運行を開始したことで、東京都や神奈川県への時間距離が短縮し、交通利便性が格段に向上しました。今では、東京駅や渋谷駅行きの路線も増え、ますます本市の地理的優位性は高まっています。

平成13年、本市のマスコットキャラクター「ガウラ」が市の公式キャラクターになりました。市が発行する冊子や資料、ぬいぐるみやボールペンなどのグッズ、市内はもちろん、市外・県外で実施されるイベントへの着ぐるみ出演など、様々なところに登場するようになりました。

平成16年、「ガウランド（健康づくり支援センター）」がオープンしました。ガウランドは各々の年代にあった様々なプログラムで市民の総合的な健康づくり活動を支援し、また指定管理者による魅力的な自主事業が展開され、今では市民の皆さまから愛される施設として定着しております。

平成17年、「椎の森工業団地」の1期地区の分譲が開始されました。立地する企業にとって、本市は優れた交通網などにより物流や生産性の向上が見込まれる魅力的なところです。一昨年より分譲が開始された2期地区も好評で、現在、企業の立地が進んでいます。安定的な財政基盤や新たな雇用の創出、地域経済の活性化が図られるなど、本事業による効果が本市のますますの発展に寄与しています。

平成19年、袖ヶ浦市農畜産物直売所「ゆりの里」がオープンしました。生産者の顔が見える安全・安心な農畜産物を提供し続け、一昨年からの改修工事で売場面積の拡張や照明のLED化、レジの増設とともに、アイスクリーム売場をミルクハウスとして屋外に設置するなど一層魅力的になり、今では、市民だけでなく、市外・県外からもお客様が訪れる人気の施設となっております。

そして、同年、私が市民の皆さまの負託を受けて、1期目の市政を担わせていただく

ことになりました。ここからの 4 年間では、「住みやすさナンバーワン・子育て環境日本一」を掲げ、マニフェスト 38 項目の実現に向けて全身全霊で取り組みました。

手前味噌ではありますが、市民や関係者の皆さまのご協力のもと、その成果として教育や子育て支援等は県内トップクラスに、また、本市の総合的住みやすさは着実に向上したものと考えております。平成 22 年には、人口が 6 万人に到達しました。

平成 23 年、袖ヶ浦ご当地グルメ王座決定戦「袖ー1 グランプリ」を開催し、優勝した袖ヶ浦の特産品の牛乳を使ったラーメン「ホワイトガウラーメン」が、本市のご当地グルメとして認定されました。

同年、市長 2 期目に就任させていただきました。この 4 年間では、市民の皆さまの負託に応えるため、1 期目の成果と課題を踏まえ、市政を取り巻く諸課題に対応し将来の発展に備えるとともに、市政経営にどのように臨むのか明らかにして全力で取り組んでまいりました。「住みやすさナンバーワン、子育て環境日本一 高齢者対策もしっかり」に向け、着実に進んできたものと考えております。

平成 26 年、新しい学校給食センターが完成しました。最新の調理設備が整備され、袖ヶ浦産の食材を使ったおいしい給食の提供はもちろん、食物アレルギーへの対応や食に関する指導の充実が図られました。

平成 27 年、長浦駅の新駅舎と自由通路が完成しました。バリアフリー設備を整備し、誰もが使いやすい駅となりました。

そして同年、市長 3 期目に就任させていただきました。市民の皆様の負託に応えるため、これまでの 2 期 8 年間の市政経営を振り返り、市政を取り巻く課題の克服と施策の遂行に全力で挑んでいるところです。

平成 28 年には、袖ヶ浦駅の新駅舎と自由通路が完成しました。円形の駅舎は全国でも珍しく、本市の新たなシンボルにもなっています。袖ヶ浦駅海側地区の工事も概成し、平成 29 年には、袖ヶ浦アンダーパスが開通し、商業・業務機能を兼ね備えた地域拠点としてふさわしいまちづくりが進んでいます。マンションをはじめ、戸建て住宅やアパートの建設が進み、すでに 1,800 人（特に子育て世代）が移り住んできています。今年は「ゆりまち袖ヶ浦駅前モール」やホテルもオープンし、地域の活性化が図られ、その効果は市全域に波及していくと考えています。

このように、「平成」の 30 年間を振り返ることで、本市が歩んできたまちづくりの様子がよくわかります。

これまで、本市の持っている地域資源や特色を活かした施策とともに、課題を克服するための主要事業を計画的に推進し、さらに本市の変容する姿や魅力を市内外に発信するシティプロモーションを積極的に展開したことなど、その成果として、本市の人口は総合計画初年度の平成 22 年 4 月と比較して 2,400 人増の約 63,704 人（本年 4 月 1 日現在）となり、最終総合計画目標人口の 64,000 人に手が届きそうになっています。特に直近 2 年間では約 1,500 人増加し、県内第 3 位の人口増加率で、全国的に人口減少が進む中、「選ばれるまち」として発展を続けております。

本年度は、新しい元号、新しい時代を大型連休で迎えました。それぞれ市民の皆さまがこれまでを振り返り、気分を一新して再スタートする良い機会です。

大型連休も折り返しとなります。健康管理や交通事故にご注意のうえ、充実した時間をお過ごしください。

なお、本市では市民の皆さまがお困りにならないよう、5 月 3 日（金）に一部の業務

において窓口を開設します。対応できない業務もありますので、ご利用の際は来庁する前にご連絡をしていただきますようお願いいたします。

令和元年 5 月 1 日
袖ヶ浦市長 出口 清